

## 『Shurenkai に出会ってからの病院成長？記』

私が Shurenkai に行き始めた理由は、治療にいきづまるのを防ぐために  
本当の「診断」を学びたいということからでした。

2014年に DiagnoB、Inspect コースに参加したのを皮切りに 2015年に OT、2016  
年に DiagnoA、2017年に Basic CD、Basic RPD、ReviewCr、2018年に ReviewCD  
を受講してきました。

また、Drill コースもプレパレーション、エンド、CBT、MMR、TPR など  
参加できる時にはできるだけ受講するようにしてきました。

しかし、お恥ずかしい話現実的には咀嚼機能をつかさどる歯科医師なのに全く  
講義内容を暴飲暴食だけして咀嚼できていませんでした。講義の中で出てきた  
ように機材をそろえ、材料を変え、習った通りに自分なりにやってみましたが、  
いざやってみると「口腔内と模型が一致しない!」、補綴検査をしようとしても  
患者さんから「そんなことはいいからはやく削ってくれ、あと何回で終わる？」  
と言われるなど問題点ばかりが露呈し、なかなか結果が出ないストレスフルな  
日々を送っていました。

そのような中で今回総会の発表を拝命しました。まさに青天の霹靂とはこのこ  
とだと痛感しました。しばしの時間思考回路は停止しましたが、これはきっと  
中村健太郎先生からの『そろそろ本気で取り組みなさい!!』という『檄』だ  
と考え、本気で補綴精度を上げるための取り組みを医院全体で取り組む決意を  
しました。

今までは講義内容に自己満足していた部分に対し、講義の内容を復習して反復  
咀嚼をし、それをいかに病院のスタッフに、そして患者さんに伝えていくか  
ということを考え院内でのミーティングを重ねてきました。そこで今回補綴臨床  
の精度を上げる 2 本柱の補綴治療、補綴診断に対していかに病院として共通理  
解をして、目標を掲げ、行動してきたかを発表させていただきたいと思います。  
まだ、ひよっこレベルのため試行錯誤している段階です。YABAI 道にそれて  
いないかご指導ご鞭撻のほどいただけたら幸甚です。

よろしく願いいたします。